



弦楽合奏団
エテルニータ

弦楽合奏団エテルニータ第19回コンサート

2025年6月29日[日]

14:00 開演 (13:30 開場)

ライトキューブ宇都宮 3F 中ホール

ごあいさつ

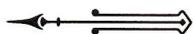
本日、ご来場の皆様を始め、多くの方々に温かいご理解とご支援を賜りまして「弦楽合奏団エテルニータ 第19回コンサート」を開催できますことをこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

さて、今回のプログラムでは新進気鋭のサクソフォン奏者の瀧岡涼氏をソリストに迎え、グlazunov作曲「アルト・サクソフォンと弦楽オーケストラのための協奏曲Op.109」を演奏いたします。弦楽合奏とソロアルト・サクソフォンがオリジナルの編成である、珍しい協奏曲ですのでお楽しみいただけると幸いです。

また、本団に縁が深く、栃木県内外で数多くの作品が演奏されている山田栄二氏の「雪の百地蔵～弦楽合奏のための」も今回演奏いたします。

バラエティに富んだプログラムで、練習も苦勞いたしました。皆様にも少しでもそれぞれの楽曲の素晴らしさや美しさ、感動をお届けできることを祈念してご挨拶いたします。

弦楽合奏団エテルニータ



PROGRAM



ヴィヴァルディ：弦楽のための協奏曲 ト短調 Rv.157

A. Vivaldi: Concerto for strings in G-minor Rv.157

メンデルスゾーン：弦楽のためのシンフォニア 第7番 ニ短調 MWV N7

F. Mendelssohn Bartholdy: Sinfonia No.7 in D Minor MWV N7

グlazunov：アルト・サクソフォンと弦楽オーケストラのための協奏曲 変ホ長調 Op.109

A. Glazunov: Concerto for Alto Saxophone and String Orchestra in E Flat-Major Op.109

アルト・サクソフォン／瀧岡 涼

*** 休憩 ***

山田栄二：雪の百地蔵～弦楽合奏のための

グリーグ：組曲「ホルベアの時代から」ト長調 Op.40

E.H. Grieg: Suite "Fra Holbergs Tid" in G-Major Op.40

ヴィヴァルディ:

弦楽のための協奏曲 ト短調 RV.157

アントニオ・ヴィヴァルディの《弦楽のための協奏曲 ト短調 RV.157》は、彼の室内乐的な作品の中でも特に魅力的な一曲です。この協奏曲は、弦楽合奏と通奏低音のために書かれており、独奏楽器を持たない合奏協奏曲の形式で作曲されています。ヴィヴァルディ特有の活気あるリズムと明快な旋律が、全体を通して際立っています。

第1楽章は力強いアレグロで始まり、短調による緊張感と推進力のあるリズムが印象的です。**第2楽章**では、穏やかで歌うような旋律が展開され、ヴィヴァルディの抒情的な側面が強調されます。**終楽章**は再び活気に満ちたアレグロとなり、技巧的なパッセージとダイナミックな展開によって聴き手を引き込みます。簡素な楽器編成ながらも、ドラマティックな構成と豊かな表現力が光る一曲です。

メンデルスゾーン:

弦楽のためのシンフォニア 第7番

ニ短調 MWV N7

フェリックス・メンデルスゾーンの《弦楽のためのシンフォニア 第7番 ニ短調》は、彼が12歳から14歳の間に作曲した弦楽合奏のための楽曲の一つです。バッハやモーツァルトの影響を受けながらも、メンデルスゾーンならではの旋律美と巧みな対位法の技術が随所に光る作品です。

第1楽章では、フーガ的な展開による緊迫感が印象的で、バロック音楽の影響が色濃く表れています。**第2楽章**では、「アモーレヴォレ(愛情深く)」との指示が記されたアンダンテが奏でられ、優雅で抒情的な旋律が展開されます。**第3楽章**のメヌエットは、古典的な舞曲の要素を持ちながらも、軽快かつ優雅な構成が魅力的です。**終楽章**では活気あふれる情熱的な音楽が展開され、若き作曲家のエネルギーと創造性を存分に感じることができます。

グラズノフ:

アルト・サクソフォンと

弦楽オーケストラのための協奏曲

変ホ長調 Op.109

アレクサンドル・グラズノフの《アルト・サクソフォンと弦楽オーケストラのための協奏曲 変ホ長調 Op.109》は、1934年に作曲されたアルト・サクソフォンと弦楽オーケストラのための協奏曲です。サクソフォン奏者ジークルト・ラッシャーの依頼によって生まれ、サクソ

フォンの重要なレパートリーの一つとして、世界中で広く演奏されています。

この協奏曲は単一楽章で構成されていますが、ソナタ形式、カデンツァ、フーガ風の終結部といった三つの異なる部分が組み込まれており、伝統的な協奏曲の構造を再構成したものとなっています。弦楽による伴奏は、ソリストの表現を引き立てる役割に徹しており、ロマン派の響きを受け継ぎつつ、サクソフォン特有の柔らかく深みのある音色が活かされています。旋律美と穏やかな抒情性が全体を包み込む、グラズノフ晩年の珠玉の作品の一つです。

山田栄二:

雪の百地蔵〜弦楽合奏のための

山田氏がエテルニータのために弦楽合奏版に多くの改訂を行なった地蔵三部作の中で最初に書かれた曲です。1995年の音楽展'85(楊枝郎追悼演奏会)で演奏され好評を博した作品です。原曲は5台のマリンバのために書かれたもので、UPAによって初演されその後各地で演奏されました。

栃木県日光市の大谷川にある、含満が淵の百地蔵(通称“化け地蔵”)を訪れた時の印象を音楽化したもので、大きく三つの部分からできており、真ん中の部分では僧侶の読経が鳥の鳴き声と共に幻想的に鳴り響く、といったイメージで書かれています。

本団では、第14回コンサートに引き続き2回目の上演となります。

グリーク:

組曲「ホルベアの時代から」 ト長調 Op.40

エドヴァルド・グリークの《組曲「ホルベアの時代から」ト長調 Op.40》は、18世紀デンマークの劇作家ルズヴィ・ホルベアの生誕200年を記念して、1884年に作曲された組曲です。当初はピアノ独奏曲として書かれていましたが、翌年、グリーク自身の手により弦楽合奏用に編曲され、現在ではこの版が広く親しまれています。

華やかな「前奏曲」、荘重な「サラバンド」、軽快な「ガヴォットとミュゼット」、叙情的な「アリア」、そして活気ある「リゴドン」の全5楽章から構成されています。バロック時代の舞曲様式を取り入れながらも、ロマン派ならではの豊かな抒情性と和声感が融合しています。グリークの卓越したオーケストレーション技法が随所に光る作品です。



指揮	吉澤真一	
ヴァイオリン	青柳敬子	赤羽根洋子
	奥村琳	川俣洋子
	小松崎倫子	土屋恵子
	中村美和	福富恵子
	宮田佳代	
ヴィオラ	亀山由紀子	川沼文夫
	小岩貴子	中村淑江
チェロ	荒川育子	君島茂
	瀬畑むつみ	八木澤亮
コントラバス	増山一成	
スピネット(チェンバロ)	益子徹	
ステージマネージャー	小林俊夫	

弦楽合奏団 エテルニータ

「エテルニータ」とはイタリア語で「永遠」を意味します。

この弦楽合奏団は2000年03月に行われた宇都宮短期大学百周年記念コンサートで再会し、宇都宮短期大学附属高校音楽科(あるいは宇都宮短期大学音楽科)で学んだ有志で結成されました。

そして未永く活動していこうという願いを込めて「エテルニータ」と名付けたのです。

音楽に限らず、何かを学んでいくことに終わりはありません。私たちは世界中の偉大な作曲家達が残してくれた、数えきれないほどの作品に触れ、それを勉強することで少しずつ前進していこうという意思を持った音楽家の集まりです。



吉澤 真一 / 指揮

宇都宮短期大学附属高校音楽科卒。東京藝術大学器楽科卒。ファゴットを山畑馨、三田平八郎、アルフレド・ヘニゲの各氏に師事。室内楽を森正、吉田雅夫、細野孝興の各氏に師事。田淵進先生より音楽全般に渡る教えを受ける。第51回日本音楽コンクール入選。NHK洋楽オーディション合格。NHKFM「午後のリサイタル」、「FMクラシックアワー」、「青少年コンサート」等出演。モスクワ放送交響楽団、ポーランド室内管弦楽団の日本ツアーに参加。「アンサンブル・オーケストラ・エローラ」指揮者兼奏者として参加。山田栄二作曲オペレッタ「不思議の国のアリス」完成版初演指揮する。

宇都宮短期大学非常勤講師。元東京フィルハーモニー交響楽団団員。著書「偉大な作曲家より学ぶ18のファゴット練習曲」バンドジャーナル「ワンポイント・レッスン」など吹奏楽関連の執筆多数。「芸能人格付けチェック」出演(笑)。「迷惑改造車を止めてもらう会」会員。

宇都宮短期大学非常勤講師。元東京フィルハーモニー交響楽団団員。著書「偉大な作曲家より学ぶ18のファゴット練習曲」バンドジャーナル「ワンポイント・レッスン」など吹奏楽関連の執筆多数。「芸能人格付けチェック」出演(笑)。「迷惑改造車を止めてもらう会」会員。



山田 栄二 / エテルニータ顧問 作曲・編曲

1948年宇都宮市に生まれる。宇都宮短期大学作曲科卒業。

作曲を石黒脩三氏に師事。同短大と同附属高校の講師を務めた後、1984年から作曲、編曲活動に専念。

作品にオペラ「ゆきと鬼んべ」「殺生石物語」「歌法師蓮生」「那須野巻狩り」

「小山物語」、オペレッタ「不思議の国のアリス」、室内楽曲「博物誌」「動物園の情景」「ファール昆虫記」、大正琴と語り手のための「手無し娘」など多数。1999年県文化奨励賞受賞。



益子 徹 / スピネット 及び 曲目解説

栃木県宇都宮市出身。宇都宮短期大学附属高校普通科を経て宇都宮大学教育学部音楽科卒業。その後渡英、英国王立北音楽大学(RNCM)大学院伴奏科ディプロマコース修了。大学院在学中より同校伴奏助手を務める。

タイ・バンコクにおける2台ピアノ連弾公演、ヴァイオリンリサイタル、フルートリサイタルなど伴奏者、室内楽奏者として国内外で活動のほか、後進の指導にもあたっている。宇都宮短期大学音楽科及び同附属高校音楽科講師、エルベ音楽院ピアノ科講師。



澗岡 涼 / アルト・サクソフォーン

茨城県古河市出身。中学在学中に吹奏楽部でサクソフォーンを始める。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科を経て宇都宮短期大学音楽科へ特待生として入学。同大学音楽科を首席で卒業、同大学研究科を首席で修了。それぞれ卒業・修了時全てにおいて、成績優秀者による卒業演奏会に出演。2018年に東京文化会館(大ホール)で行われた

若手演奏家の登竜門である読売新聞社主催、第88回読売新人演奏会に出演。第29回日本クラシック音楽コンクール全国大会において最高位を獲得。2024年に開催したリサイタルでは超満員、好評を博す。

現在はソロや吹奏楽との共演などをはじめとした演奏活動の傍ら、個人レッスンや吹奏楽指導にも力を入れており、教え子の受賞も多数。特に最近ではアメリカ、タイ、中国など海外への指導も行っている。テレビやラジオなどメディアへ出演経験も豊富。須川展也氏のマスタークラスを受講。サクソフォーンを田名部有子、田中靖人の各氏に師事。